

# 資料館だより

2026年 春号

## contents

館長あいさつ	1
イタイイタイ病の教訓を次世代へ	2
トピックス	2
四大公害病を語り継いでいくために	3
イタイイタイ病資料館運営会議	3
ニュース	4
資料館インフォメーション	4

令和8年  
2月8日(日)

## 「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」開催!



新田八朗県知事挨拶



社会福祉法人恩賜財団 済生会 炭谷茂理事長特別講演



野田八嗣館長の事業報告



富山市立新保小学校の児童の発表



富山市立西部中学校の生徒の発表

## レアアースと環境負荷



レアアース(REE)は、超電導、強磁性、触媒、光学、蛍光など多様な特性を持っており、今やハイテク製品に不可欠な金属資源となっています。世界中で争奪戦が激化していますが、その供給においては中国が高いシェアを占めているのが現状です。

REEそのものには特に毒性があるわけではありませんが、REE鉱石には、トリウムやウランなど放射性物質を含むものが多く、ヒ素やカドミウムなど有害な重金属も含まれています。また、採掘や分離・精製過程においては、強酸や強アルカリなどの化学薬品を大量に使用します。REE鉱山では、REE1トンを経験する過程で、放射性物質や有害な重金属、また化学薬品を含む数千トンの廃棄物が生じると言われています。日本をはじめ先進国では、これらの環境負荷を生産国に背負わせている状況です。

### 富山県立イタイイタイ病資料館 館長 野田 八 嗣

一方、わが国では、南鳥島沖の水深約6千メートルから2026年2月1日にREE泥の回収に成功しています。この深海の海底泥において、REEは魚骨に存在するため放射性物質や有害な重金属は含まれず、クリーンREEとも言われています。また、世界最高品位の超高濃度REE泥で、埋蔵量も莫大とされています。深海からの採取には相当なコストがかかると思われませんが、魚骨からREEを分離・精製するため希塩酸で対応可能との報告もあります。今後、環境負荷を最小限に抑えたかたちでの発展が期待されます。

わが国の公害の歴史は、イタイイタイ病もそうですが鉱山開発が深く関わっています。REEは産業発展には極めて重要な元素であり、世界中でREE鉱石探しと開発が進むと思われるが、環境破壊や環境汚染そして健康被害の歴史を繰り返さないことを願うばかりです。

令和8年2月8日（日）に「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」を開催しました。イタイイタイ病資料館の会場に64人と Web で17人の参加がありました。

新田県知事の挨拶の後、社会福祉法人恩賜財団済生会の炭谷茂理理事長に「ウェルビーイングのまちづくりを目指して～公害の教訓を生かす～」の演題で特別講演をしていただきました。日本での公害が生活弱者を苦しめた事実の反省をもとに、環境と福祉を結び付け、ウェルビーイングに向けた各国の事例を交えて話していただきました。また、公害の記憶の伝承や環境活動の実践が大切であるとし、「イタイイタイ病資料館が拠点として活躍することを期待する」と力説されました。参加者は興味深く聴講していました。

フォーラムの後半は、次代を担う若者たちによる発表を行いました。富山市立新保小学校5年生の児童6人が、資料館を見学したり、調べたりして分かったことから、自分たちの生活を見つめ、考えたことをまとめて発表しました。富山市立西部中学校1年生の生徒2人は、「僕たちの身近に起きた公害 イタイイタイ病について」というテーマで、イタイイタイ病によって生じた人々の苦しみや、再発防止のためにしている取り組みについて、実際に資料館に訪れることで学んだことを発表しました。

引き続き、野田館長が当資料館の今年度事業を報告しました。



富山市立新保小学校の児童の発表



富山市立西部中学校の生徒の発表

## 参加者の声

児童・生徒の発表や発表に至るまでの学びを聞き、風化させず語り継いでいくことが大切であると感じました。多くの話を聞いて、今の生活ができてきているのは当たり前ではないこと、過去があり、今がある、そして未来へつながることを強く感じました。

(会場 30歳代)

子どもたちの発表を聞いて、私自身も知らないことがあって、いろいろ考えさせられました。

(会場 40歳代)

イタイイタイ病を知ること、これからのまちづくりについて考えることの大切さを感じました。

(会場 50歳代)

インクルーシブについて、小学生が深く学び、考えていることに驚きました。

(会場 70歳以上)

特別講演を聴いて、環境と福祉に取り組むときは、別々ではなく一緒に考え取り組む必要性を学び、とても勉強になりました。

(会場 70歳以上)

若い人たちが公害の問題を身近なことと捉え、自分は今からどう行動すべきかを真剣に考えていたことに感銘を受けました。

(Web 60歳代)

講演で、貧困と公害被害が密接につながっていて、併せて解決していくことの重要性を教えられた。中学生などの若い世代が公害に関心をもってきているのは心強いと思いました。

(Web 70歳代以上)

## トピックス イ病の問題を肌で感じてみませんか

### サテライト事業

令和7年12月8日（月）から令和8年1月22日（木）にわたって、イタイイタイ病資料館サテライト事業としてパネル展示「イタイイタイ病について学び、伝えよう」を富山県立富山西高等学校で実施しました。

被害地域の地元にある高校として、切実感を伴った関心を示す生徒も見受けられました。



### アンケートから

勤務する速星地区でも大きな被害があったことが知れてよかったです。後世に伝えつつ、過ちを繰り返さないこと、先人の苦勞、勇気、努力をよく知り、学んでいくことが大切だと思いました。

資料館に足を運んで、イタイイタイ病をわずらわれた患者の気持ちなどを知りたいと思いました。

日本以外でも同じような問題が起きていたことがあるか知りたいと思いました。小中学校の時に何回も訪れたことがありますが、今の目線でもう一度イタイイタイ病について考えてみたいです。

イタイイタイ病の被害の実態について詳しく知ることができました。一度かかると治らない奇病で、このことは絶対に忘れてはいけないと思いました。資料館に足を運び、もっと詳しい情報を知りたいと思いました。富山県民としてイタイイタイ病について学びたいと思いました。

# 四大公害病を語り継いでいくために

## ●「四大公害病の語り部講話を聴く集い～語り部による伝承会～」を開催しました。

令和7年10月18日（土）、四大公害病（水俣病、新潟水俣病、四日市ぜんそく、イタイイタイ病）各資料館の語り部が富山県に参集し、「四大公害病の語り部講話を聴く集い～語り部による伝承会～」を開催したところ、会場とWebを含め58名の参加がありました。

前半の語り部講話で、「水俣市立水俣病資料館」の語り部滝下昌文さんは、母親の胎盤を通して発症した「胎児性水俣病」となり、小学校入学前からリハビリで通院したことや兄が結婚するために、父から「街に出て遊んで来い」と金を渡され水俣病を隠して生きた青春時代の経験をお話されました。

「新潟県立環境と人間のふれあい館」の語り部曾我浩さんは、23歳から手が震える症状があったが、自分の子どもの将来を考えて名乗り出ず、定年後に被害者救済訴訟の原告として闘ったことや、「水俣病でも口もきけるし、歩けるし、仕事もできるのうそだと疑われ、陰口をたたかれた」辛い経験をお話されました。

「四日市公害と環境未来館」の語り部鈴木優美さんは、保育園児の頃に認定患者になったが17歳のときに養母の「認定患者はお嫁にいけない」という言葉を信じ、認定を取り消した経験をお話されました。また、小学4年生のとき、被害者らが裁判で加害企業に勝訴したことを知り、「体が弱いのは自分のせいじゃないと救われた」とも話されました。一方、それらの経験から「同じ過ちを繰り返さないで」と多くの方に伝えることで、自分の苦しみにも意味があったと考え直すことができたことと力説されました。

「富山県立イタイイタイ病資料館」の語り部鏡森定信さんは、萩野病院での研修医時代に入院患者が病院を抜け出して用水路に身を投げたり、葬儀で参列者や遺族から「良かったね」と話されたりしたことに衝撃を受けたことを話されました。また、「当時の医療では痛みから解放されず、死だけが痛みから逃れる手段だった」と振り返り、医師として無念だった思いをお話されました。

後半の意見交換会では、4人の語り部の方にイタイイタイ病対策協議会の江添良作会長と当資料館の野田館長を加え、「公害の記憶継承に向けて」と題して交流が行われました。



滝下昌文さんと長迫支援員



曾我浩さん



鈴木優美さんと栗田主幹



鏡森定信さん



江添良作会長と野田館長

### 四大公害病 各資料館の語り部



意見交換会

### 参加者の声

公害の症状、昔は公害病に対して何が行われていたか、裁判などの歴史、次の時代に伝えるための取り組みなどを知るよい機会となりました。  
(20歳代)

意見交換の中で、語り部さんの継承の問題がありましたが、年月が経つにつれ、確保が難しくなる中、次の世代に伝えるために早急に解決すべき問題であると感じました。  
(20歳代)

語り部さんがどのように歩いていらしゃったのかが特によく分かりました。公害の問題は、健康被害だけでなく、人の心の問題にも大きく関わると感じました。  
(50歳代)

自分も大阪市内の工場地帯で高校生まで生活し、すさまじい公害の中で暮らしてきたことを思い出しました。自分も気管支炎でしたが、公害病である意識はなかったです。曾我さんの言われたように、広く環境の問題として、世界の問題として考え、行動していければと思いました。  
(70歳以上)

## イタイイタイ病資料館運営会議

令和8年1月16日(金)



この会議は、鏡森定信名誉館長を座長とし、環境省の田中大平室長をオブザーバーに迎え、各委員の方から、当資料館の運営を円滑に行うことを目的に、運営に関する事項や事業実施に関する事項について協議しています。

当日は、各委員のそれぞれの立場から、率直な意見が出されました。

### 【委員の主な意見】

- ・ 中学校への副読本を現在の2年生ではなく、授業で使用する1年生へ、年度当初に配布してほしい。
- ・ 管理職の先生への見学会をぜひ行ってほしい。
- ・ バス代の予算が限られているのであれば、全額でなくても補助してもらえれば広く活用できるのではないかと。
- ・ インターンシップの学生さんに来ていただいて、運営について意見を聞いたり、新しい企画を考えてもらったりしてはどうか。
- ・ 語り部だけでなく、解説ボランティアの充実を図ることも大切だと思う。
- ・ 副読本の内容をまとめた観光客向けの小冊子があれば、県外の方も足を運んでもらえるのではないかと。

## 清流環境作文コンクールの表彰式がありました



「清流環境作文コンクール」の表彰式（神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会とイタイイタイ病対策協議会が主催）が、2月21日（土）にイタイイタイ病資料館2階交流学習ルームで行われました。

8回目となる清流環境作文コンクールには、校外学習などで当資料館を訪れた小学生などから1071点の応募があり、選考審査の結果、個人賞部門で最優秀賞7名と



優秀賞22名の受賞者に表彰状と盾、記念品が贈呈されました。また、学校賞の小学校1校と学級賞の39学級が表彰されました。



最優秀賞の内、高学年の3名が自身の作文を読み上げ、意見交流会では、次のような環境への思いを述べていました。

- ・まず、大切なのは、イタイイタイ病について知ること、そして知らない人に知らせることだと思う。もし自分だったらという気持ちを忘れずにいたい。
- ・私は、千保川にかかる鳳鳴橋や石垣に誇りをもっている。今後、近くの中学校や高校と地域の人たちと美しい千保川を守っていききたい。環境のためになるような会社で働きたい。
- ・生き物がすみやすい川や自然をこれからつくっていくことにより、昔のようにホテルと共に暮らせるようにしたい。

## 資料館インフォメーション

### 令和7年度 下半期の行事経過

令和7年

10月18日（土） 四大公害病の語り部講話を聴く集い  
～語り部による伝承会～

令和8年

1月16日（金） イタイイタイ病資料館運営会議  
2月8日（日） イタイイタイ病を考える県民フォーラム

### 令和8年度 上半期の行事予定

4月24日（金）～5月6日（水・振休）

春の特別企画展

「立ち上がった住民、取り戻した清流」写真展

4月29日（水・祝日）

春の特別講演会

6月下旬 語り部・解説ボランティア研修会

7月下旬 イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー

8月上旬 夏休み自由研究講座

8月下旬 イタイイタイ病資料館活用研修会

※詳細については、ホームページ等でお知らせいたします。

### ○語り部講話の聴講者を募集しています

資料館を団体（原則10名以上）で見学される場合には、事前に申込みいただくと、イタイイタイ病に関して貴重な体験をされた語り部さんの講話を聴くことができます。（来館される3週間前までにお申し込みください。）

※詳細は資料館ホームページをご覧ください。

### 春の特別企画展

「立ち上がった住民、取り戻した清流」写真展を開催します！（参加無料）

イタイイタイ病資料館で保管している写真から、これまで未公開の写真パネル展示します。

期間：4月24日（金）～5月6日（水・振休）

場所：イタイイタイ病資料館

※詳細については、資料館ホームページ等でお知らせします。

## 課外学習サポート事業の利用校募集のお知らせ

令和8年3月24日（火）より募集を開始します!!

新年度も多くの児童・生徒にイタイイタイ病について学んでいただくため、学校等に「無料送迎バス」を提供する「課外学習サポート事業（環境省委託）」を実施します。

資料館への送迎は、これまでと同様に、学校や県内施設を起点・終点として実施します。

高速料金については、学校の所在地が朝日町、入善町、黒部市、氷見市、小矢部市及び南砺市の場合のみ無料送迎バスの対象になります。

利用条件など詳細については、資料館までお尋ねください。

### ○メールマガジン登録者募集中

資料館の最新情報などをお伝えするメールマガジンを配信しています。配信を希望される方は次のメールアドレスあてにメールを送信してください。【mlhope@itaitai-dis.jp】